

府中市議会・市政レポート

いなづ 稲津 けんご



今号の主な項目

- 1面 【本会議から】 2期目の「高野市政」を考える
- 2面 【一般質問】 同性パートナーシップ宣誓制度の現状と課題
- 3面 【委員会から】 「日本に新たな基地はいらない」と訴える声
- 4面 【議会が謎だから聞いてみた】 2. 決算審議が持つ意味

本会議から

【9月議会】 2020年1月は府中市長選挙

2期目の「高野市政」を考える

● 3期目への決意表明

2019年中に開催された本会議では、市長として2期目の最終年に入った高野律雄（のりお）市長に対して、市政の総括を求める質問や意見が多く出ました。

9月30日開催の本会議で、高野市長は「新たな府中の未来をつくるとの気概を持って市政に全力で取り組むことが、私に課せられた責務である」と述べ、3期目への挑戦を正式に表明しました。

ラグビーW杯が終わり、府中市独自で市の活性化を強める必要があります。人を新たに呼ぶこともでしょうが、今現在、府中市で暮らしている方への配慮も大切です。視線は常に市民に向けるべきでしょう。



● 「市民との対話と協働」の現実

高野市長は、市長選への決意表明をした際に「市民の皆様のご理解とご協力を得て、多岐にわたる施策事業を展開し、一定の成果を得た」と自己評価しました。

しかし、市長が提案した「公共施設利用料金の有料化」に対する市民の不満の声は今なお聞かれます。市民を交えた十分な検討と準備期間が無かったという意見もあります。こうした溝をいかに埋めるかがカギとなるでしょう。

● 府中市長選は1月26日

この日は午前7時から午後8時まで投票を受け付け、即日開票されます。当日の投票が難しい方は、期日前投票をご活用ください。



本会議から

【9月議会】 あ那时的誓いを果たす時が来た

日本政府よ、今こそ核兵器廃絶に向けて動く時だ

● 今一度問う、唯一の被爆国が出来ることは何か？

9月30日開催の本会議で「核兵器廃絶のため、日本政府が積極的な役割を果たすことを求める意見書」が審議されました。稲津けんごが所属する会派「市民フォーラム」が代表となって出された議員提出議案で、「非自公」と呼べる会派が賛同したものでした。

自公側から意見書に対する質問や反対意見が出ましたが、賛成多数で可決されました。意見書は翌10月1日に議長名を記した上で、内閣総理大臣や外務大臣、防衛大臣、内閣官房長官宛に送られました。

2017年12月議会で「政府に核兵器禁止条約へ参加を求める意見書の提出についての陳情」が不採択になったこともあり、今回の採択は大きな前進でした。

● ICANからのメッセージを忘れない

2017年12月議会終了後、ツイッター上でICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)から「引き続き(採択や可決に向け)がんばってほしい」とメッセージをいただきました。それから2年近く経っての可決に、良い報告が出来たと思う一方で、これで終わりにしてはならないという気持ちでいっぱいになりました。

ICANのメッセージには「ボトムアップの底力をバカにできません」ともありました。今後も核兵器廃絶の重要性を説くと同時に、日本の条約参加に向けて積極的に活動します。



一般質問

【9月議会】東京都府中市の新たな魅力となるか？

同性パートナーシップ宣誓制度の現状と課題

● 幸先良いスタートを切った

9月3日開催の一般質問で、稲津は2019年4月1日に始まった「同性パートナーシップ宣誓制度(以下:制度)」を1件目の質問で取り上げました。

市の答弁では、既に3組が宣誓手続きを行い、トラブルも無く宣誓書を発行したとありました。制度は順調な滑り出しだったと言えます。

制度開始後に府中市に転入した方や、これから婚姻年齢に達する方に対して特段の周知を行っているものの、市全体での意識啓発に取り組んでいるとの答弁もあり、稲津はこうした動きの徹底を強く求めました。



● でも、ここがゴールという訳ではない

「要綱」として取り扱われ、性的マイノリティーの方のみを対象としている今回の制度ですが、稲津のもとには「条例化」や「選択的夫婦別姓希望者を含んだ事実婚カップルへの対象拡大」を求める声が寄せられています。

こうした意見に対して市は、「現行の制度を通じて市民への意識啓発に努めたい」と述べるにとどまりました。

稲津は市に対して、条例化に向けた議論を深めるよう求めました。また、事実婚カップルも対象としている千葉市の事例を調査・研究するとの答弁を受け、1人でも多く救うことを目指して取り組むよう要望しました。



一般質問

【9月議会】悲しみの連鎖を断ち切れ！

こころといのちを支え合う府中市を目指して

● 重く厳しい現実に立ち向かえ

2件目の質問は「府中市自殺総合対策計画について」と題して、市の自殺対策や現状などを尋ねました。

市内では年間約45名ほどが自ら命を絶ち、その7割以上が男性で、30から50歳代が多いとのこと。

また、市政世論調査では「悩みを感じた時に誰かに相談することにためらいを感じるか」という質問に、46.6%の方が「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答していました。

原因は様々ですが、誰もが悩みを持っています。1人で抱え込まずに誰かに相談出来る環境整備が求められています。市はその対応と周知を「課題のひとつ」と認識していました。



● 「たら」「れば」で苦しまないために

「あの時、声をかけていたら」「もっと話を聞いていれば」など、遺された方が抱く後悔の念は強いものです。そこで、稲津は遺族に対するケアや、自殺防止対策についても質問しました。

市は「ゲートキーパー(自殺の予兆を見抜き、悩みを聞いて必要な支援につなぐ人)」の育成や、リーフレットやSNSなどを活用した情報発信、相談支援体制の強化などを進めたいと回答しました。

稲津は「最悪なケースに至らない社会になるよう、市と共に頑張りたい」と述べ、心のケアやサポートの対象に「自殺に至る寸前だった方」も加えて、チームで対応すべきと強調しました。



誰も自殺に追い込まれることのない社会へ

ひといき

毎週水曜日は府中市の「ノー残業デー」なのに

一般質問2日目は「働き方改革」の逆行だ

● 一般質問2日目が「ノー残業デー」と重なった

府中市議会(定数30)では、一般質問を2日間の日程で行います。1日で10名以上が登壇するため、夜になってようやくその日の本会議が終わります。関係する市職員を長時間拘束する現状があるのです。

そんな中、9月議会と12月議会は、市のノー残業デーと一般質問2日目が重なってしまいました。これを受けて12月議会前の議会運営委員会では、一般質問の日程を3日間とする案が審議され、2020年6月議会から「3日間開催」という方向で検討が進められることとなりました。



● こういう時こそ「他市並み」で

今回の問題を受けて、稲津が近隣市の一般質問について調べたところ、府中市より定数が少なくても、多くの議会が3日以上を確保していることが分かりました。

特筆すべきは、国立市(定数22)と日野市(定数24)です。両市とも「1日5名登壇」を基本とし、職員の残業リスクを大幅に減らしていました。この仕組みは同時に、議長を除く全議員が一般質問に登壇する流れにつながっていました。

府中市で「1日5名登壇」を導入するのは難しいかも知れませんが、少しずつでも残業リスクを減らす策を進めたいです。



一般質問

【12月議会】安心と安全は「人を守ること」から

建設労働者の雇用と技術を高める仕組み作りを

●「建設キャリアアップシステム」って何？

12月4日開催の一般質問で、稲津は市に「建設キャリアアップシステム（以下：CCUS）」を活用して、建設労働者の賃金や人材の確保を図ることを提言しました。

CCUSとは、建設労働者の就業履歴や保有資格などの情報を蓄積し、処遇改善や技術向上を図ることを目指したシステムです。CCUSに登録された建設労働者が持つICカードで、その方の技術や経験などが証明されます。

市はCCUSについて「これから調査する」と答弁しましたが、官民が連携して推進するシステムであるため、稲津は市に出来るところから動くよう求めました。



● 建設業界では特に「若手不足」が深刻

建設業界では全国的に「若手の人材確保」が急務となっています。同時に、技能の伝承も進める必要があります。危険がつきまとう業種ですが、人々が暮らす上で重要な職業であるため、業界ではCCUSを導入して建設労働者を守る動きを進めています。

● 公共工事にも関わる問題

市が公共施設や設備を整えるにあたって、安かろう悪かろうの対策は許されません。市は建設労働者の雇用や処遇の改善を都市整備を成功させる1つの対策」と考えるべきです。



委員会から

【12月議会】辺野古も同じ日本の中にあるんだ！

「日本に新たな基地はいらない」と訴える声

● 委員会は「賛成」、本会議では「反対」が多数

12月5日開催の総務委員会で、辺野古新基地建設のための埋め立て中止を求める陳情が審議されました。その場では採択すべきものと決定しましたが、同17日開催の本会議では賛成少数で不採択となりました。

反対を主張したのは自民党（市政会および新政会）、公明党、都民ファーストの会などで、反対理由として「県民投票で中止に賛成したのは全人口の3割ほどで、意思を表明しない人も結構いた」「辺野古は新基地でなく既存基地の拡張だから」などという意見が出されました。

反対理由に無理があると感じているのは稲津だけでないと信じています。



● 繰り返し同様の陳情が出された理由を考えよ

辺野古に関連した陳情は9月議会でも提出されました。この時は民主主義と憲法に基づき公正に解決することを求めた陳情でしたが、こちらも賛成少数で不採択となりました。連続して提出された陳情を熟読していくと、日本政府の辺野古に対する理不尽な扱いに怒りを覚えている方や、この問題を我が事として考えている方が実に多いと感じます。

稲津は総務委員会に所属していませんが、以前から辺野古の埋め立て工事に反対を表明しています。どちらの陳情にも賛成しました。辺野古の心の痛みを癒やす方法は「工事中止」であると訴え続けます。



委員会から

【12月議会】時代に合わせて見直しを

2つの「保険税」に関する陳情が継続審査に

● 久々に見た「継続審査」

12月9日開催の厚生委員会で審議された2つの陳情（多子世帯の子どもの国保税の軽減を求める内容の陳情と、介護保険ケアプラン作成に1割の自己負担を求めないよう政府に求める内容の陳情）が、同17日の本会議で「継続審査」と決まりました。

● 子育て支援の面でも重要

国保税は基本的に全額が自己負担になります。加入者には低所得者層が多く、格差拡大につながっています。多子世帯の子どもの国保税の軽減する案は理にかなっていると考えます。



● 介護が必要になった時に「更なる負担」？

「介護保険ケアプラン作成時の1割負担案」は、今後の国会での審議に向けた動きが見られます。介護保険料を納めていながら、更なる自己負担を強いられると考えると、幅広い市民からの理解は得られにくいでしょう。今後の政府の動きを注視したいところです。

● 最終判断は3月議会に

継続審査となった2つの陳情は、3月議会で改めて審議され採決にかけられます。稲津はいずれも賛成に手を挙げたいと考えていますが、この間も市民の声をしっかり聴いてまいります。





府中市の未来がかかる予算を徹底議論

2月25日～3月23日開催予定 予算審議も

● 第1回定例会が新年度を決める

令和2年第1回定例会(3月議会)では、令和2年度予算審議が行われます。恐らく、予算に対する賛否討論も行われることでしょう。

稲津は今回の予算審議でも「委員」として臨みます。府中市の財政が市民にとって納得のいくものになっているかどうか、精査してまいります。

● 5月中旬には臨時会開催

この臨時会は1日だけの開催で、新たな所属委員会を決めることになっています。どの委員会に入っても、職務をまっとうすべく、頑張っまいます。委員会の任期は1年となっています。

● 第2回定例会は6月上旬から

第2回定例会(6月議会)は、本会議と常任・特別委員会審議が中心となります。また、この会からは一般質問が3日間にわたって開催される予定です。

【本会議(一般質問など)】

→ 本会議場やインターネット中継で傍聴可

【委員会審議(常任・特別・議会運営・予決算)】

→ 会議室で傍聴可

【各派代表者会議】【委員協議会】

→ 非公開(本来は公開すべきものです)



← 府中市議会を知る

日程や議案など、議会情報は
こちらの二次元コードから

府中市議会を見る →

本会議インターネット中継は
こちらの二次元コードから



教えて！
稲津さん

議会が謎だから聞いてみた



【質問2】



決算って、使い終わったお金のことですよね？
審議や採決をやる意味が分かりません。

【稲津けんごが答えます】

● 決算を「審議」する理由は？

確かに、決算は使い終わったお金のことなので、結果報告だけ行えば良いと感じるかも知れません。それであれば、1日程度で話が終わるでしょう。

しかし、決算に至るまでには「お金を使うための計画」や「お金を使うという行動」などが含まれます。決算を見るということは、その計画や行動が適切だったかどうかを精査することでもあります。

万が一、予想外の出費や用途不明金が出た場合には、その概要や理由を知る必要も出てきます。

● 決算に「賛成」または「反対」する理由は？

東京都府中市議会では、決算特別委員会を5日間行います。歳入(収入)と歳出(支出)の各項目について、議員が市側に質問し、詳細を確認・追及していきます。そこで問題が無いと判断されれば「賛成」、あると判断されれば「反対」となる訳です。

また、決算をもとに組まれる「次年度予算」を考慮して、各議員が賛否を判断することもあります。

全会一致の時は本会議で直接採決し、賛成と反対で意見が割れる際は本会議中に「賛否討論」を行った上で採決となります。

決算の審議や採決には、財政を考える上で重要な意味があるのです。



次年度の予算は、「決算」無しでは始まらない。



決算も丁寧に、かつ、厳しく見る必要があるんだね。



ライフワークは今なお絶やさず

毎週月曜朝は分倍河原駅で市政報告

● 市政は今も動いている

毎週月曜日の朝は、祝日や年末年始、荒天時を除き、分倍河原駅改札口にて市政報告を行なっています。また、不定期ではありますが、西府駅、中河原駅、西国分寺駅などでも市政報告を行なっています。

議会終了後に市政レポートをお配りしている他、市政に関わる様々な問題や課題、現状などをお伝えしています。

● 市民相談やご要望なども承ります

市政報告中も、悩みや不安を抱える方の声を「聴く」活動を進めています。また、市政へのご意見やご要望も承ります。どうぞ気軽にお声がけください。



● 稲津けんご略歴

1968年北山町生まれ・西原町在住。府中七小、私立和光中、都立狛江高卒。米・サウスアラバマ大学学士号、米・ピッツバーグ大学院修士号取得。

議会運営委員会、建設環境委員会、市庁舎建設特別委員会に所属。

市政レポート次号は2020年7月発行予定です。

(2020年4月は後援会通信を発行します)

公式サイトやSNSでも随時、活動報告をしています。



← バックナンバー

過去のレポート(PDF)は
こちらの二次元コードから



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。